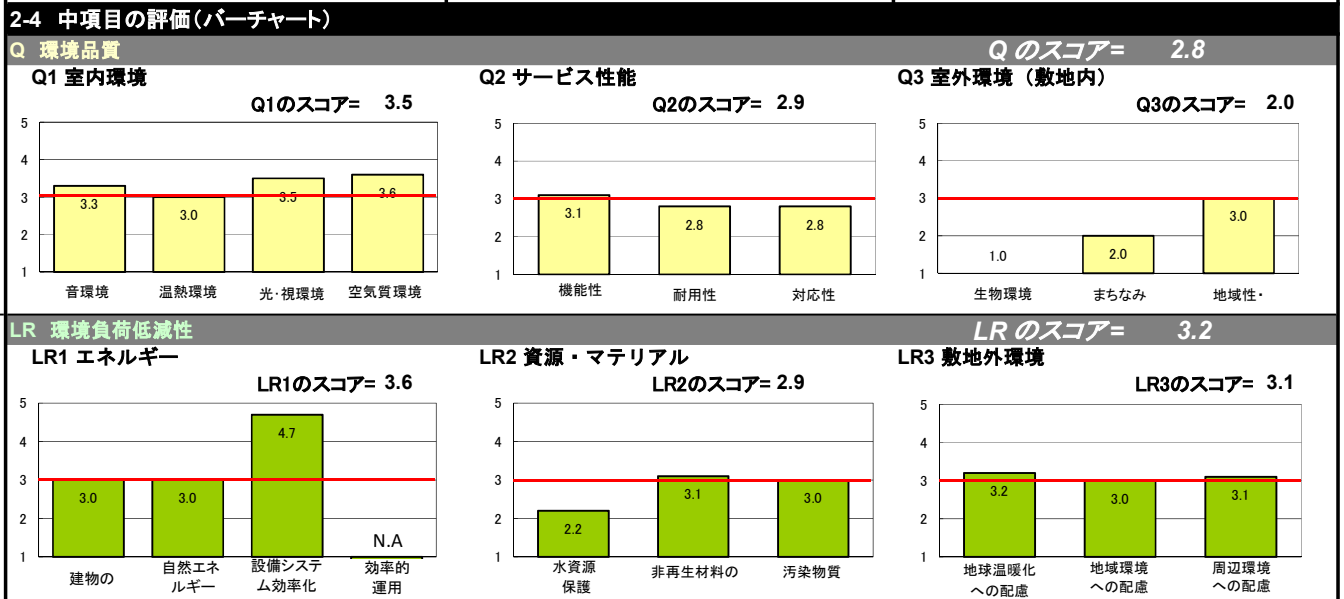
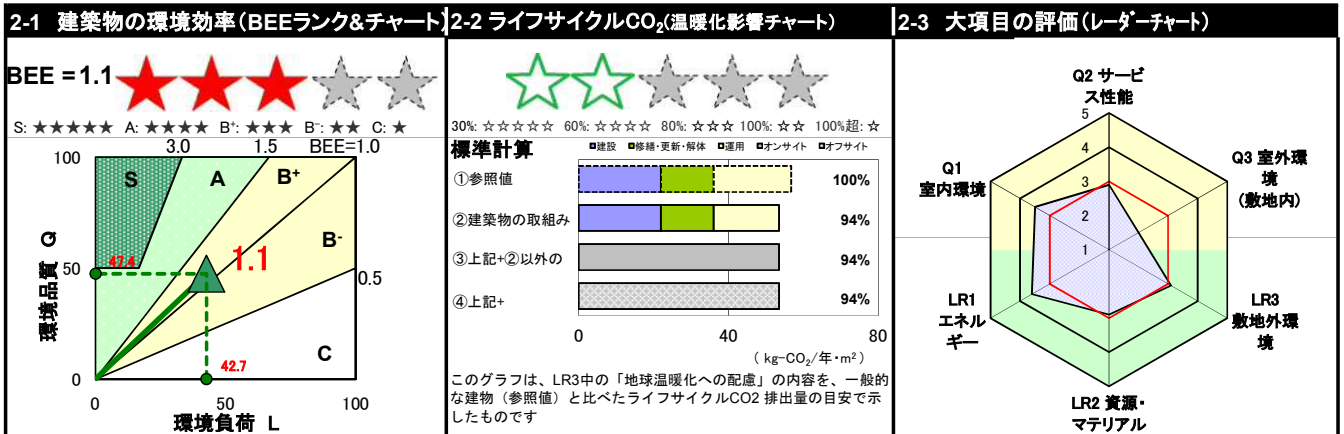


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14073

建築物名称	(仮称) 梶ヶ谷3丁目Ⅱ計画新築工事
建築主	株式会社 末長企画 代表取締役 根本 彰
建築物の所在地	川崎市高津区梶ヶ谷3丁目2番5ほか
設計者氏名、建築士事務所名	上原 秀晃 株式会社ディーシービー 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,825.05m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階、地下2階
工事完了予定年月	平成28年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

1-1 建物概要		1-2 外観		14073
建物名称	[仮称] 梶ヶ谷3丁目II計画新築工事	階数	地上5F地下2F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	川崎市高津区梶ヶ谷3丁目2番51ほか	構造	RC造	
用途地域	準住居地域、第3種高度地区	平均居住人員	146人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2014年12月12日	
敷地面積	1,147 m ²	作成者	上原秀晃	
建築面積	747 m ²	確認日		
延床面積	3,825 m ²	確認者		



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

【仮称】橋ヶ谷3丁目II計画新築工事

14073

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市景観計画に則した外壁面の色彩計画	1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.3 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.2 屋光制御	庇・カーテンによりグレアを抑制した。	3.9/5.8	3.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級3同等の断熱仕様とし熱負荷を抑えた。 高効率蛍光灯照明を採用した。	3.7/5.0	3.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 フロン・ハロンの回避	LGS工法を採用し躯体と仕上げが安易に分別可能とした。	2.7/4.6	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	配管材料の一部に硬質塩化ビニル管を採用	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS工法を採用し躯体と仕上げが安易に分別可能とした。	2.3/3.9	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級3同等の断熱仕様とし熱負荷を抑えた。 高効率蛍光灯照明を採用した。	3.7/5.0	3.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の再利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.4	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級3同等の断熱仕様とし熱負荷を抑えた。 高効率蛍光灯照明を採用した。燃料系潜熱回収瞬間式給湯器を採用した。	3.7/5.0	3.7

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEF-川崎2011年版						欄に数値またはコメントを記入				14073
スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40			3.5
1 音環境										3.3
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル								3.0	0.50	
										0.50
1.2 遮音										3.6
1 開口部遮音性能								3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					LL-40使用			3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					LH-50使用			5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								4.0	0.20	
1.3 吸音										
2 温熱環境										3.0
2.1 室温制御										3.0
1 室温										1.00
3 外皮性能				W				3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										3.5
3.1 屋光利用										3.0
1 屋光率					屋光率2.0%以上確保		1.00	3.4	0.50	
2 方位別開口								5.0	0.50	
3 屋光利用設備				W				1.0	0.30	
3.2 グレア対策										3.0
2 屋光制御					住戸部は、カーテン及び庇によるグレアを制御			4.0	0.20	
				W						4.0
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										3.6
4.1 発生源対策										3.0
1 化学汚染物質					建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に使用		1.00	4.0	0.63	
								4.0	1.00	
4.2 換気										3.0
1 換気量										3.0
2 自然換気性能										3.0
3 取り入れ外気への配慮										3.0
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
1 機能性				3.0	0.40	3.2	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.57	4.0	0.60	
1	広さ・収納性				-		-	
2	高度情報通信設備対応		光ケーブルを利用		-	4.0	1.00	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性				-	-	2.0	0.40	
1	広さ感・景観				-		-	
2	リフレッシュスペース				-	3.0	0.50	
3	内装計画			-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.43		-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.8	0.31		-	2.8
2.1 耐震・免震				3.0	0.48		-	
1	耐震性			3.0	0.80		-	
2	免震・制振性能			3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33		-	
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.23		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.23		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.09		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.08		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.15		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.23		-	
2.4 信頼性				2.2	0.19		-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20		-	
3	電気設備			3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり				-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制				W	H			3.0
2 自然エネルギー利用								3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H			3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H			3.0
3 設備システムの高効率化				W	H			4.7
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)								4.7
集合住宅の評価								4.7
4 効率的運用								-
4.1 モニタリング				W	H			-
4.2 運用管理体制				W	H			-
LR2 資源・マテリアル								2.9
1 水資源保護				W	R			2.2
1.1 節水								1.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0
1 雨水利用システム導入の有無								3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無								-
2 非再生性資源の使用量削減								3.1
2.1 材料使用量の削減				W	R			2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R			3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R			2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R			4.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0
1 消火剤				W				-
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0
3 冷媒				W				3.0
LR3 敷地外環境								3.1
1 地球温暖化への配慮				W				3.2
高効率蛍光灯を採用した。								3.2
2 地域環境への配慮								3.0
2.1 大気汚染防止								3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0
1 雨水排水負荷低減					R			3.0
2 汚水処理負荷抑制					R			3.0
3 交通負荷抑制					R			3.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R			3.0
3 周辺環境への配慮								3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0
1 騒音								3.0
2 振動								-
3 悪臭								-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制								3.0
1 風害の抑制								3.0
2 砂塵の抑制								-
3 日照阻害の抑制								3.0
3.3 光害の抑制								3.7
1 屋外照明及び屋内照明のつらねに漏れる光への対策								4.0
2 屋上の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0
広告物照明なし								3.0

14073

(仮称)梶ヶ谷3丁目Ⅱ計画新築工事

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に基づいています。